

道南農業経営者 育成だより

■発行者■
道南農業経営者
育成対策協議会

「新時代への躍進」

道南農業経営者育成対策協議会

会長 森 隆 志



当協議会会員ならびに各関係機関の皆様には、日頃より当協議会の活動に対しご理解とご協力を賜り厚く感謝いたします。

さて、我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが昨年五月より五類に移行し、コロナ禍以前の社会経済活動の正常化に戻りつつありますが、農畜産物の消費は依然として低迷しており、更には国際紛争や急激な円安の進行などにより、

肥料原料や飼料穀物をはじめとした農業生産に必要な資源価格の高止まりが、農業経営に甚大な影響を与えています。これらの影響により、世界の食料需給事情は大きく変化しており、輸出制限を行い自国の食料を確保する各国の動きが活性化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪戦がすでに始まっています。我が国においても食料安全保障の観点から「国産国消」のもと、国内生産への重要性がより高まる中、食料基地である北海道農業への期待は、今後ますます大きくなるものと考えております。

また生産資材の価格高騰は、経営コストの増加に直結し、販売価格に適切に転嫁できなければ、食料安定供給の基盤事態を弱体化させかねません。食料の安全保障に欠かれない持続可能な農業生産には、「適正な価格形成」の実現が不可欠であり、「再生産可能な価格」の仕組みづくりに向け消費者の理解醸成と「食料・農業・農村基本法」の見直しによる法制化が求められます。

農業を取り巻く環境は、自由貿易

の拡大による競争激化、国内の人口減少による消費の縮小と消費ニーズの多様化、高齢化を背景とした農家戸数の減少や担い手不足、物流では二〇二四年問題に加え北海道新幹線札幌延伸による貨物輸送問題、生産コスト上昇分の販売価格転嫁が進まないなど、農業経営にとって深刻な課題が山積しております。

当管内においても、農業経営者の高齢化による生産農家の減少が著しく、生産基盤の縮小や地域農業の弱体化が懸念されており、担い手の育成やスマート農業による農作業の省力化・効率化と併せ、近年の極端な気温上昇や干ばつ、集中豪雨など気象変動による生産環境変化への対応が急務となっております。

このような状況の下、この一年間も生徒の皆様、保護者、ご家族、教育現場の諸先生方におかれましては、様々な行事活動の実践には一言では言い表せない感情であります。

そして三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんは、この大切な三年間の学びと経験を、今後も世界的に農業生産環境が多様に変化する新時代での躍進に生かすことを期待しております。最後になりますが、当協議会に多大なご支援・ご協力を賜った各市町村、関係機関の皆様と共に、校長先生をはじめ教職員の皆様には農業経営後

継者の育成指導に更なるご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

「農の学びを生かして」
北海道大野農業高等学校

校長 仲川 敏 幸



三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年間の学業生活を終え、大野農業高校を無事旅立つ卒業生の晴れの姿を見ることができました。心より祝福を贈りたいと思います。また、日頃から本校の教育に對しまして多大なるご理解とご支援を頂きました、道南農業経営者育成協議会関係の皆様には、心より感謝とお礼を申し上げます。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルス等への感染症対策をしつつ時期や内容を見直しながらも、一通りの事業を実施することができました。研修そ

して訪問をお受けいただいた関係機関の皆様には、重ねてお礼申し上げます。

「農業基本法」に代わり「食料・農業・農村基本法」(以下、農基法)が制定されてからおよそ二十五年が経過し、特に近年では、世界的な食料情勢の変化に伴う食料安全保障上のリスクの高まりや、地球環境問題への対応、海外の市場の拡大等、農業を取り巻く情勢が現在の農基法制定時には想定されなかったレベルで変化しています。このため見直しに向けた議論が行われており、令和六年度の通常国会において改正案が提出される予定と報道されており、見直しの四つの方向性が提示されています。「みなさん(国民)に食料を届ける力の強化」「次世代へつなぐ、環境にやさしい農業・食料産業への転換」「新たな技術も活用した、生産性の高い農業経営」「農村・農業に関わる人を増やし、農村や農業インフラを維持」です。この四つの方向性のうち、特に二つめの四つ目については、本校を含めた全道・全国の農業高校や農業大学校、農業系大学・専門学校が各校種・分野に沿った教育活動、キャリア教育をおこなって深く関わり、担っていく内容になるため、農基法の改正によって農業教育の現場も変化していくと思われます。

さて、今年度の道南農業経営者育成対策協議会の最後の事業として一月三十一日に実施した研修報告会・就農等激励会では、農業改良普及セ

ンター様・北斗市農業振興センター様を会場として行った「関係機関の訪問研修」の報告。道央方面へ出かけ、出来たばかりの北広島市Fビレッジ内でICTをフルに活用した生産施設を見学できる「クボタアグリフロンティア」を含めた「広域視察研修」の研修報告後に、両研修会に参加した生徒八名の他に農業系専門学校に進学する一名、生産法人等に就農する一名、生産・加工製造に直接係る団体や企業に就職する三名の生徒を含めて十三名が進路報告を行い、激励を受けました。若くて意欲のある皆さんは、学業や研修で学び培った多くの知識と技術、仲間との間で築いたネットワーク等、持てる力を十分に発揮し、将来の地域産業をリードする担い手として、大きく成長してくれることを期待しています。

結びに渡島、檜山管内市町村をはじめ関係機関の皆様におかれましては、今後とも本校の農業経営者教育推進のため、なお一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「旅立つ皆さんへ」

渡島農業改良普及センター

所長 山口和彦



大野農業高校三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。楽しかった3年間の高校生活を終え、旅立つ卒業生の皆さんの心は希望に満ちあふれていると思います。心よりお祝い申し上げます。

新型コロナウイルスは、令和二年一月に国内で初感染が確認され、令和五年五月には五類相当に移行しましたが、未だに流行が続いています。皆さんの高校生活はコロナで始まり、コロナで終わってしまったのかもしれない。しかし、このような厳しい条件の中でも、学業に専念し、また充実した高校生活を過ごされたものだと思います。コロナが最終的には、どのような形で終息するかの見通しはついていません。しかし、アフターコロナは、完全にコロナ以前の状態へ戻ることはないと思います。アフターコロナを意識した取り組みが必要だと思えます。農業を取り巻く情勢は、日々大きく変化しており、

ロシアによるウクライナ侵攻や不安定な中東情勢、円安の影響による食料品等の価格の上昇などにより、国民の食糧や農業に対する意識が高くなっているように感じます。農業は、外部の影響を大きく受ける産業ですが、これからも食糧を生産する必須の産業であります。やり方や工夫次第で無限の可能性に満ちた産業であると思えます。

農業経営予定者研修に参加された皆さんは、昨年九月に農業改良普及センターで道南農業の概要や普及センターの業務について学んで頂きました。この研修は、かなり以前から行われており、私が平成八年にこちらに初めて赴任した時にはすでに、この研修が行われており、講師をした記憶があります。その当時の生徒が道南地域で就農して、現在では農協の役員や作物部会の会長、指導農業士となり就農を希望する農業実習生を受け入れるなど地域のリーダーとして大活躍をしています。研修に参加された皆さんが将来、親元・農業法人への就農や農業関係の大学への進学、農業や食品関係の企業に就職するなどして、先輩方同様に「農業」や「食」を大いに盛り上げる人材になる事を期待しています。

最後になりますが、卒業生の皆様が新しい世界に旅立ち、ご活躍することを期待しています。また、道南農業経営者育成協議会の活動が盛んになり、より多くの農業経営者を育成できることを祈念致しまして、挨拶の言葉といたします。

農業経営予定者研修に 参加して

農業科学科三年 藤 井 愛 理

私たちは、九月に行われた農業経営者育成研修で渡島農業改良普及センターへ赴き、渡島農業の概要や、普及センターの業務についての研修を行いました。

はじめに、西川主任普及指導員に普及センターと普及指導員の業務内容、渡島農業の概要についての説明をしていただきました。普及指導員は、巡回指導、相談、栽培方法の実証展示、直接農業者と接して現場で課題解決を総合的に支援する役割を担っています。全国には七二〇〇人、北海道では現在約六〇〇人の普及指導員が勤務しているそうです。渡島管内の農業は戸当たりの耕地面積は生産される農畜産物は多種にわたります。また、温暖な気候を生かし、二毛作も行われていて、地域の農産物を利用したジュースや漬け物、お菓子などの加工も盛んに行われています。

次に佐藤主査に案内していただき普及センター施設内の見学を行いました。農業振興センター内にある土壌分析室では、技術者の高谷さんに分析に使う機械それぞれの説明をしていただきました。物理性・化学性に関わる診断をすることで地域の土

壌を分析し、その土地に適した作物を判定するために緻密な機械を通して行われることだと分かりました。

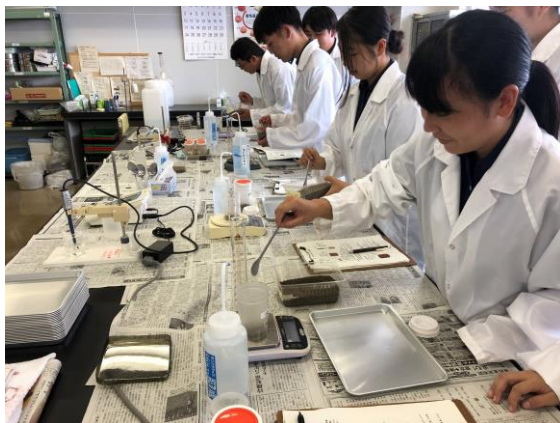
続いて、土壌診断の基礎を河野普及指導員に教えていただきました。そこで、土壌管理の「物理性、化学性、生物性」の三つの要素が大事で、物理性は土壌区分で四つの沖積土、泥炭土、火山性土、洪積土によって変わります。北斗市・大野・上磯は沖積土に分類されていることがわかりました。次に成田専門指導員に土壌診断の測定について教えていただきました。普及センター近隣の圃場へ向かい、コーンペネトロメーターという貫入式硬度計を用いて土壌硬度の測定を行いました。農場の硬度はだいたい一・五メガパスカル以下が目安で、それ以上だと作物の生育が妨げられるということが分かりました。実習で使用した畑では、一・五以下だったので生育に向いているというところを実際に見ることができたので良かったです。

午後からは、普及センター土壌室で土壌pH、ECの測定を竹田普及指導員から、指導していただきました。土に水を加えてこねることで土性を判定し、腐食の有無、土壌の物理性、化学性の診断としてpHとECの測定を行いました。石灰資材量の算出で、pH矯正のための必要炭カル数を求める計算ではアレニウス係数が必要であり、土壌の土性や腐植を調べたのは、アレニウス係数を

調べる準備の一つだということがわかりました。最後に土壌診断結果の活用方法は、安藤普及指導員から教えていただきました。pHを上げるために行うpHの矯正、pHを下げるために行う水稻育苗床土の酸度矯正、地力の増強のためにリン酸の投入それぞれの計算方法を詳しく教えていただきました。

大野農業高校に入ってから初めて普及センターに関することを学んだので、分からないことも多々ありましたが、今回の訪問研修で知らなかった情報が手に入り、視野を広げることができました。また、普及センターは、すべての農業を支えるとても重要な仕事であることを改めて感じることができました。

私たちも進学後、あるいは卒業後、



何らかの形であらゆる地域の農業に貢献することができるよう努力してまいります。農業を学ぶ場を設けてくださりありがとうございます。

広域視察研修に参加して

農業科学科三年 上 村 美 優

後 藤 乙 葉

私たちは一日目に札幌の北広島にある北海道ボールパークFビレッジのクボタアグリフロントに行きました。バスでボールパークに向かう道中にエスコンフィールドが見えてきてみんなでたくさん写真を撮っていました。クボタアグリフロントの建物も全体的にガラスできていてみんな建物を見上げていました。お昼にクボタアグリフロントカフェでミネストローネとサラダを食べました。ミネストローネに入っているトマトやサラダに入っていたリーフレタスはアグリフロントのテックラボで生産、収穫されているものを頂きました。研修ではダイナミックな映像やシミュレーションゲームを通して農業経営について学ぶことができました。テックラボでは最先端の作物栽培を直接見る事ができました。環境にも優しい農業の最先端を見ることができて将来的にこういう農業が増えていけばいいなと思います。

た。クボタアグリフロントでの最後のポログラムでは食への感謝の気持ちを込めお米を食べました。クボタアグリフロントでは農業の多様性を楽しく学ぶことができよかったです。

次に向ったのが酪農学園大学です。酪農学園大学では普段立ち入ることのできない屋上を見学し、札幌全体の景色を見ることができました。他にも、獣医学科や獣医保健学科が手術などのシミュレーションができる施設スキルスラボ棟を見学させてもらいました。スキルスラボ棟はアジア初の施設で本物の生き物を傷つけないで、すべて模型を使用してアニマルウェルフェアに特化した施設だと思いました。

二目は岩見沢市有明町にある岩見沢自治体ネットワークセンターを見学してきました。このセンターはICTを活用し住民の質的向上や地域産業の活性化のため様々な研究をしているセンターです。今後、活性化するスマート農業を活用するのに興味深いお話をたくさん聞くことができ私たちだけでなくもっと多くの農業経営者に知ってほしいと思うような研修でした。

次に雪印メグミルク酪農と乳の歴史館へ行きました。主な説明は、創業からの歴史を感じることができ当時使用されていた製造機械を展示されております。また、工場見学もすることができ商品の製造工程を見ることができました。

施設は、約一時間かけて周りガイドさんの説明の元、見学していただきました。展示施設には、当時、使用されていた製造機械やジオラマなどがありバターやチーズの現在に至るまでの製造過程、バター工場やアイスクリーム工場なども見る事ができました。そして、雪印メグミルクの当時使用されていたポスターが年代ごとに壁に貼られておりより歴史を感じることができました。また、工場内の作業着にも工夫がされていた。それは、工場の作業着は約二十九本のペットボトルで出来上がっており、サステナブルな作業着だと思いました。雪印メグミルクの歴史を知ることと同時に、現代の日本を感じることが出来る施設だと実感できた視察でした。



今回の訪問研修で知らなかった情報が入り、視野を広げることができました。私たちも進学後、あるいは卒業後、何らかの形であらゆる地域の農業に貢献することができるよう努力してまいります。農業を学ぶ場を設けてくださりありがとうございます。

地域を担う農業経営者たち

農業科学科三年 安藤 秀成



○今後の抱負

私は高校二年生の時から農業関係の仕事に就職をしたいと思って農業の勉強をやっていました。それからインターシップで実際に農業の仕事を経験してみても自分に合っていると思い農業関係の仕事に就職したいと決意を固めました。このインターシップをきっかけに、令和六年の春から森町で畑作農家に就農が決まりました。皆さんご存じであるピュア

ホワイトやブロッコリーなどを生産していくことになりました。大野農業高校では特に美味しい野菜を作るためにはとんでもない努力と経験が必要だと学びました。それと農業経営者育成研修にて農業改良普及センターで土壌診断の基礎や土壌硬度の測定や土壌のpH、EC測定などをさせていただいたことをしつかり今後に活かしていきたいと思っています。そして、何事にも主体的に取り組み、協力することで地域の農業の活性化に貢献できるような人を目指して頑張ります。

○印象に残った研修

私が一番印象に残った研修先は、北海道北広島にあるクボタアグリフロントです。クボタアグリフロントではアグリクエストというゲームをやりました。アグリクエストはチームと話し合って野菜、作る場所、どこで売るかなど判断して一番お金を稼いだチームが優勝というゲームをやって見て色々なやり方があるだと学びましたし農業は判断をする勇氣と挑戦が大切だと思いました。岩見沢自治体ネットワークセンターでは今の日本の農業の課題やスマート農業の活用やICT利活用によるコミュニティサービスに関するアプリケーションの開発と運用の概要を学び、農業分野におけるICTの活用方法などを教えてもらいました。また、環境センサー付きカメラやローカル5Gを活用した自動走行トラクター

を見させていただきました。特にスマート農業と自動走行トラクターなどはこれから導入する農家も増えていくと思いますので体験したことを財産にして仕事でも生かせるように頑張りたいと思います。それからこのようないろいろな体験ができたのは先生や地域のみなさんなど多くの人が支えてくれたからです。これからは私が支えられるような人になりたいと思います。そして感謝の気持ちをお忘れずに成長し続けたいと思います。

農業科学科三年 伊藤 寛斗



○今後の抱負

私は将来、美味しい料理を作りたいと考えています。そう思うようになった理由は、父が経営する漁業でとれた魚や、親戚が経営する果樹、畑作、肉牛それらの、新鮮な食物が自分の口に収まるだけでは物足りないと考えたのがきっかけでした。どうせ食べてもらうのなら手を加えてもっと美味しいものを作りたい。

そう考えた結果、私は、調理製菓専門学校にいきたいと思いました。ですが、その調理製菓専門学校が、人が集まらないため募集を停止することが分かりました。それでも、みんなに美味しいと思われる料理を作りたい。そう考えた私は函館短期大学の食物栄養学科に進学することになりました。そこでは、栄養のことはもちろん調理のことも学びたいと思っています。

これまで大農の実習で学んだ知識や技術をフルに活用して、食物のありがたみに感謝を忘れずに函館短期大学食物栄養学科で、栄養士の資格取得を目指して、美味しい料理を作れるように、これからもやっていきます。

○印象に残った研修

私が一番印象に残った研修先は、岩見沢自治体ネットワークセンターです。そこでは、無人トラクターの見学や農家さんが減っていることなどのお話をいただきました。その中でも印象に残っていることは、岩見沢市が阿部寛さん主演の下町ロケットのモデルになっていたことです。下町ロケットにもある通り無人トラクターが動いていたり今では畑を耕す時や、収穫する時など一人四台の無人トラクターを動かすことができ、その誤差はプラスマイナス5cmまで減っているそうです。無人トラクターを使わずに作業をしたときは十日くらいかかるところ、無人トラク

ターを使った結果三日くらいで、終わるそうです。能力的には一日で終わらせられるはずが、収穫物がたまり、置くところがなくなり収穫が止まってしまい三日かかるそうです。純粋に無人トラクターがすごいと思ったと共に無人トラクターなら農業従事者が、いなくても農業を始めていける可能性があると思いました。

農業科学科三年 上村 美優



○今後の抱負

私は将来、動物看護師として働きたいと考えており、本校卒業後は動物看護学を学ぶために、北海道江別市にある酪農学園大学獣医保健看護学類へ進学します。

私は高校三年間で、牛舎での活動が一番印象に残っています。獣医師さんや受精師さん、酪農家さんの方々と関わりたくさんの方々と繋がることができました。また、出産や安楽死を通して経済動物について考えるきっかけになりました。牛の出産では命が誕生するまでの過程と喜

びが分かり、牛の安楽死では経済動物の存在意義について考えさせられるきっかけとなりそれと伴い、経済動物には日々の体調管理、予防治療がとても重要だと実感し、私は予防医療について興味を持ちました。

酪農学園大学では、私が目指す動物看護師に近づく為に様々な研究室や施設などを活用し技術や知識を深めることができたらいなと思っています。また、動物看護の勉強は自分の想像以上に大変かと思いますが、一つでも多く高校で授かった知識や経験を活用できたらと考えています。

○印象に残った研修

私が印象に残った研修先は、酪農学園大学にあるスキルスラボ棟の施設を見学させていただいたことです。スキルスラボ棟は、アジア初の施設で動物の生態を使わずに専門器具や模型を活用し、動物に負担をかけずに動物医療に必要な技術を取得することができ施設です。オープンキヤンパスでは見学することのできなかった新しい施設を見ることができたので施設内を見て歩くのがとても楽しかったです。

施設内では、衛生面に非常に気を使っており、外靴用と中靴用の二つに廊下がガムテープで区切られていました。施設内には動物の模型や診療時に使う機械や器具が装備されており、シミュレーション授業を繰り返し行うことを知りました。そして、施設の中には動物病院をイメージし

た部屋があり、患者、飼い主の対応、受付の対応などができ接客対応も学べるのが心強いと思いました。
春からは私もここの施設で学ぶことができるのでとても楽しみに思っています。

農業科学科三年 川口 大河



○今後の抱負

私は将来、高校の農業教員を目指しており高校卒業後は酪農及び教員になることを学ぶため、北海道江別市にある酪農学園大学循環農学類へ進学します。

高校の実習で初めて農業に触れました。普通高校では体験できないような様々な体験ができ、とても驚くと同時に農業の楽しさや大変さを学ぶことができました。私が、一番印象に残っている実習は、長いもの収穫です。普段は、トラクターなどの大きな機械などで効率よく収穫しますが、実際に手で掘る実習があり農機具を活用しながら一〜二m自分の身長を超える大きな穴を掘り、長芋

を傷つけず折らないように慎重に収穫した時には達成感などを感じ農業の楽しさや大変さを学ぶことができ、その時に将来は高校の農業の教員を目指したいなと思いました。

また、近年は国際化が進んでおります。それに対応出来るように大学進学後には英語に力を入れてTOEICに挑戦して社会で通用するくらいの六〇〇点以上を目指して頑張っていきたいと思います。そして、ワーキングホリデーなどを活用して海外の農業従事者などと交流してみたいと思っています。

この二つの目標を達成出来るように充実した四年間にしていきたいと思っています。

○印象に残った研修

私が一番印象に残った研修先は、北海道雪印です。普段私たちが食べている牛乳やヨーグルトなどといった、主に乳製品を製造しています。実際に牛乳が殺菌されているところやパッケージになるところなど、様々な製造構造を見学ができてとても楽しかったです。それ以外には実際に使われている機械などが展示されており凄く楽しみなが深く学ぶことができて良かったです。また、牛乳によって多くの人が感じる牛乳を飲んだらお腹が痛くなると言う人が多いと思いますが、雪印に行った際に牛乳を飲んでもお腹が痛くならない牛乳を見つけたとても驚きました。また、機会がありましたら北海道雪

印工場に訪れてみたいと思いました。
農業科学科三年 後藤 乙葉



○今後の抱負

私は将来乳牛に関わるお仕事に就きたいと考えており、高校卒業後は乳牛について学ぶため、北海道江別市にある酪農学園大学循環農学類へ進学します。

私は高校で初めて乳牛と出会い実習を通して分娩や安産死の場面を直接目にする事ができて命の大切さを知ることができました。その他にも実習を重ねていくうちに実習に対しての達成感を感じるようになり乳牛についてもっと深く学んでいきたいと思うようになりました。そこで、私は大学に行って酪農について、乳牛についてもっと学んでいきたいと思い酪農学園大学に進学を決めました。酪農学園大学では高校で学ぶことができなかったフリーストール牛舎やアニマルウェルフェアについても学ぶことができます。その他にも、私が興味のある家畜繁殖や家畜行動

学についての研究室もあり乳牛のことをより学ぶことができる環境になっているので高校で学んだことを活かしながら乳牛についての知識を大学で深めていき、将来の夢に一步でも近づけるように勉強を頑張りたいです。から大学生活を楽しんでいきたいです。

○印象に残った研修

私が印象に残っている研修場所は、広域視察で訪れた札幌の北広島にある北海道ボールパークFビレッジのクボタアグリフロントです。クボタアグリフロントは建物全体がガラスで建てられていてとても開放的な空間になっていて建物の中には、カフェがありました。

そこで食べたミネストローネがとてもおいしかったです。研修では、正面 左右の壁、床の四面でダイナミックな映像がながれる部屋で、食と農業の素晴らしさを改めて知ることができました。その他にも、農業経営のシミュレーションゲーム「アグリクエスト」では自分たちで選んだ作物をいろいろな方法で五年間の農業経営をするというシミュレーションゲームをしました。農業経営の面白さと農業の多様性について学ぶことができました。テックラボでは最先端の作物栽培を直接見ることができどのような農業の課題を解決するのかを体感することができ、とても面白かったです。アグリフロントの最後のプログラムでは、食への感謝の気持ちを込めてお米を食べまし

た。アグリフロントでは農業の難しさを改めて知ることができ、貴重な体験をすることができてよかったです。

農業科学科三年 廣瀬 あかり



○今後の抱負

私は、春から民生博愛会に就職します。農業とは、かけ離れています、小学生と関わる仕事に就くことになりました。その職業では、午後から勤務なので、午前は実家の敷地を借りて、作物栽培を予定しています。ジャガイモやサツマイモなどの畑作とトマトやメロンなどの野菜を栽培したいと考えています。大野農業高校で日々、命の大切さ、食の重要性を学ぶことができました。農業経営者育成研修では、未来に向けてのスマート農業に関する最先端の技術や、農業分野におけるICTの活用方法を学びました。大野農業高校や農業経営者育成研修で学んだことを生かし、体調管理に気をつけて頑張りたいと思っています。

○印象に残った研修

私が一番印象に残った研修先は、クボタアグリフロントです。クボタアグリフロントでは、シミュレーションゲーム「AGRIQUEST」をやらせていただいて、そのゲームでは、農業経営の面白さと農業の多様性を楽しみながら学ぶことができました。

また、農業最先端の作物栽培を体験できる「TECK LAB」も視察をさせていただきました。そこでは、農業の課題を解決する、最先端の技術「アグリテック」が活用している様子を見学することが出来ました。

クボタアグリフロントは、子供から大人までたくさんの方までが体験できるので誰でも楽しく学ぶことが出来ます。今回の研修で知らなかった情報を学ぶことが出来たと印象に残っています。

農業科学科三年 藤井 愛理



○今後の抱負

私は卒業後、北斗市で野菜農家に就農が決まっています。就農を決めたきっかけは、祖母が昔小さな庭で様々な野菜を栽培していたことがきっかけです。小さいとき、祖母が育てる野菜を食べるのが好きでした。特にトマトが好きでした。祖母と同じようにおいしい野菜を栽培し皆とこの味を共有したいと考え、農業関連に興味を持つようになりました。

ですが、今まで土や植物に携わることがなかったため、大野農業高校に入学してから苗販売会や、市販の苗を購入し、栽培することが多くなりました。虫に食べられてダメになることや、強風に煽られて倒れてしまうことが多かったです。そこで大野農業高校で栽培や飼育方法、経営などいろいろなことを学び、祖母の栽培した野菜とは程遠い味ですが、やっとの思いで今年野菜の栽培を成功させることができました。土壌に関することや病気、対処方法などいろいろなことを学校で学ぶことができたおかげでやりたかったことを実現することができました。大野農業高校で勉強させていただいたことを何らかの形で職場でも実家ででもいろんな場所でも活かしていきたいと思っています。今後は自分の苦手なことも積極的に取り組み、就職先の方々と協力して新鮮で美味しい作物を栽培していきたいです。

○印象に残った研修

一番印象に残った研修先は、訪問研修時に訪問させていただいた農業改良普及センターです。研修先では、普及センターの役割や渡島農業の概要を図や表を使ってわかりやすく教えていただきました。施設見学では土壌分析に使う機械と専用の土壌分析室を視察し、土壌分析室の全ての機械を合わせて約一億円もかかることに驚愕したのを覚えています。

午後からは土壌に関する基礎実験や測定方法を実習で勉強しました。基礎実験ではある場所の土に水を加えこねることで土性を判定し、土壌の物理性を見て学ぶことができました。

ほかにも、土壌診断結果の活用方法や、施用量を測定する練習問題で施肥計算の重要性に関することも学ぶことができました。今回の研修を経て、私はまだ農業に関してほんの少ししか学べていないことに気付かされました。それと同時にもっと農業を学びたいという気持ちがより一層増えたと感じています。

訪問研修、広域育成研修で学んだことを今後の活動で活かせることができました。素晴らしいと思います。農業に関する勉強の場を設けてくださったことに感謝します。ありがとうございました。

令和5年度 事業報告

五月十日

農業経営予定生徒の名簿成
農業経営把握学習等

六月十九日

道南農業経営者育成対策協議会
年度始総会

九月十一日

関係機関訪問研修
(農業改良普及センター)
《研修内容》・農業改良普及センターの
業務内容・渡島管内の農業の概要
・普及センター施設見学・農業振興センター
土壌分析室見学

九月十一日

実技研修「土壌診断研修」
(農業改良普及センター)
《研修内容》

・土壌硬度の測定

・土壌pH、ECの測定

・土壌診断結果の活用方法

九月二十六日～二十七日

広域視察研修

・クボタアグリフロンテ

・酪農学園大学

・岩見沢自治体ネットワークセンター

・雪印メグミルク酪農と乳の歴史館

一月十九日

農業講演会

合同会社山形巧哉デザイン事務所
代表 山形 巧 哉 様

演台

「これからを生きる若者たちへ」

一月三十一日

農業経営者育成研修報告会
就農等激励会

三月一日

機関誌

農業経営者育成だより
第三十三号発刊

農業クラブ対外成績

◎ 南北北海道学校農業クラブ連盟

意見発表大会(真狩高校)

・発表分野Ⅰ類

農業科学科三年

前野 琴 音 (出場)

農業科学科二年

小笠原 拓 斗 (出場)

園芸福祉科三年

宮川 結 名 (出場)

◎ 日本学校農業クラブ北海道連盟

技術競技大会(帯広農業高校)

・鑑定(園芸)

園芸福祉科三年

田名部 千 紘 (優秀賞)

園芸福祉科三年

宮川 結 名 (優秀賞)

園芸福祉科二年

立 川 明 (優秀賞)

・家畜審査(乳牛)

農業科学科一年

玉 森 月 梁 (優秀賞)

・家畜審査(肉牛)

農業科学科二年

木 村 匠 斗 (優秀賞)

◎ 日本学校農業クラブ全国大会

熊本大会

農業鑑定競技会(熊本農業高校)

・分野園芸

園芸福祉科三年

田名部 千 紘 (出場)

◎ 日本学校農業クラブ北海道連盟

全道実績発表大会(旭川農業高校)

・発表分野Ⅰ類

《畑作班》

農業科学科三年

前野 琴 音 (出場)

農業科学科三年

金子 春 希 (出場)

農業科学科三年

佐々木 琉 成 (出場)

・発表分野Ⅲ類

《果樹班》

園芸福祉科三年

宮川 結 名 (出場)

園芸福祉科二年

立 川 明 (出場)

園芸福祉科三年

佐 藤 零 (出場)

園芸福祉科二年

西 村 大 地 (出場)

